

---

第 47 回 神 戸 港 港 湾 審 議 会

議 事 録

---

第47回神戸港港湾審議会

1. 会議の日時及び場所

- (1) 日 時 平成31年2月8日(金) 午前9時55分開会  
(2) 場 所 神戸市役所1号館14階 AV1会議室

2. 出席委員の氏名

(1) 学識経験者

加藤 恵 正	竹 林 幹 雄
古 庄 雅 生	山 縣 宣 彦
池 田 薫	東 惠 子
毛 海 千佳子	南 部 真知子
岩 佐 光一朗	木 原 浩 一

(2) 市会議員

坊 やすなが	松 本 のり子
堂 下 豊 史	川 内 清 尚
高 橋 としえ	

(3) 港湾関係者

植 村 武 雄  
長 田 庄太郎  
酒 井 隆 司  
木 戸 貴 文 (代理 児 玉 浩 )  
久 保 昌 三 (代理 稲 田 重 彦)  
須 藤 明 彦 (代理 船 引 雅 彦)  
若 松 康 裕  
片 岡 徹 (代理 山 田 哲 也)  
鴨 頭 明 人

(4) 関係行政機関の職員

荒 木 一 聡 (代理 雨 宮 功 )  
黒 川 純一良 (代理 奥 谷 丈 )  
古 場 誠 也  
吉 田 正 彦 (代理 鶉 山 久 )  
石 川 紀

以上、出席委員 29 名

欠席委員 7 名



### 3. 議事の経過概要及びその結果

(1) 開会

(2) 委員の紹介

(3) 委員の出席状況報告

委員総数 36 名中出席委員 29 名であり、本会議は有効に成立していることを報告

(4) 副市長挨拶

(5) 神戸港港湾計画の一部変更について

小嶋港湾計画課長から説明

(資料-1 神戸港港湾計画 (一部変更) について (諮問) (写))

(資料-1 (1) 神戸港港湾計画書 (案) -一部変更-)

(資料-1 (2) 神戸港港湾計画資料 (案) -一部変更-)

[質疑等要旨]

(委員) 埋立にかかる事業費はいくらか。

(事務局) 全体で約 25 億円を想定している。

(委員) ①フェリーの貨物は本当に増えているのか。

②22 万トンクラスの客船が新港第 4 突堤東面に着岸するにあたり、浚渫の必要はあるのか。

③ツアーバスは神戸に来ているのか。

④ツアーバスは順繰りに観光客を迎えに来るので、周辺の港湾用地に止めておいて問題ないと思うがいかがか。

(事務局) ①ほぼ毎日のようにキャンセル待ちがあり、乗りきらないものはお断りをしている状況だと聞いている。

②水深については、現状のままで十分受入可能である。

③神戸市内への観光バスも多数含まれている。

④観光客を待たせないように、クルーズターミナルに近接した場所でバス駐車場の確保が必要だと船社から言われている。

(委員) 何年ぐらいでペイできるのか。

(事務局) 概ね 30 年で回収可能と考えている。

(委員) そもそもウォーターフロントの再開発をせず、港湾関連用地を残していれば、わざわざ埋立をしなくても済む問題だと思ひ、賛成しかねる。

(委員) この地域はウォーターフロント空間として再開発していく方針。近年、インバウンドが急激に増えてきており、この時期に観光客をしっかりと取り込むためにすぐに対応すべきと考える。

(委員) 工事概要はどこで議論するのか。

(事務局) この審議会でご承認いただいた後、3月に国の審議会を経て最終認められる。その後、具体的に埋立免許の手続きに入るのので、その中では工事の設計概要等の検討を行うことになる。ただ、できるだけご迷惑をおかけしないように周辺の皆様と調整しながら進めていきたい。

(委員) 時間帯によっては車両が混雑するので、陸上から資材搬入される際は配慮しながら進めてほしい。近年、トラックの運転手が本当に不足している。これから益々貨物を



運びにくくなるので、フェリーの大型化というのは非常に重要である。

(委員)トラックの運転手が不足する中、現実的にはフェリーでしか代替輸送できないので、大型化しなければならない。これは神戸のためでもあるが、日本のためでもあることを我々は肝に銘じておくべき。クルーズは、外国船だけでなく邦船の寄港も増えていくように神戸をブラッシュアップできればよい。

(委員)フェリー下船後、三ノ宮駅まで歩いて移動する際に、港のエリアが殺風景に感じる。着いた観光客が、うきうきしながら三宮へ向かうことができる環境整備を希望する。

(事務局)フラワーロードから港に続く歩道については、夜間照明等を行っている。開港150周年記念事業としてポートオアシスも整備したが、周辺は変わっていない状況なので、埋立事業の中で計画を練っていきたい。

(委員)埋立により奥行きが狭くなることで、着岸する際、操船上の観点からの意見はどうか。

(委員)こういったパースはいくらでもあるので、特に問題はないし、むしろ集客のためにはいいのではないか。

(委員)新港第4突堤東側に22万トンの大型客船を着岸するにあたり、現在の港湾の形状を変更する必要はないのかなと思うがいかがか。

(委員)今回の議論の対象ではないが、やはり回頭は狭い。客船の操船精度の良いものも入ってきているが、そろそろ大きさの限度ではないかと思う。

(事務局)海難防止研究会の中で議論しているが、22万トンの大型客船は入港できると結論がでているので、それを前提に話をさせていただきたい。

以上の審議の結果、1名の委員から原案反対の表意があり、採決を行った結果、賛成多数により原案を可決した。

#### (6) 専門部会報告

加藤会長から平成30年12月20日に開催された第38回環境整備負担金部会議決事項の報告

(資料-2 港湾環境整備負担金に関する負担対象工事の指定について(諮問)(写))

(資料-2(1) 神戸市港湾環境整備負担金条例・同施行規則)

(資料-2(2) 港湾環境整備負担金に関する負担対象工事の指定について(答申)(写))

#### [質疑等要旨]

(委員)藻場の形成・維持などについて、水の中の緑地と解釈して、港湾環境整備負担金の制度を用いてバックアップできる可能性はあるか。

(事務局)本市では議論してないので、他都市の事例を踏まえて研究していく。

(委員)博多港で悩んでいるようなので、ぜひ港湾管理者同士で意見交換や研究をしてほしい。

#### [その他意見]

(委員)港湾計画の一部変更は賛成。ここでの議論ではないが、環境への事前予測を行う仕組みができればと思う。

(事務局)今回の埋立は突堤間のそれも基部の一部のため、水質への影響というのはほとんどないと考えている。現在、環境への影響評価に必要な項目の現地調査を今年度実施しており、今後、環境への影響評価を行いながら事業を進めていきたい。

#### (7) 閉会



上記議事録は議事の内容を正確に記録したものであることを証明する。

平成 31 年 3 月 11 日

会長 加藤 恵正



委員 南部 真知子



委員 若松 康裕

